

MEGA★BRASIL

ブラジル国内の面白いニュース、人、出来事などを中心にブラジルの今を届けます。

メニュー一覧

打楽器奏者アイルト・モレイラの復活作、遂に完成

2026年 05月 11日



アイルト・モレイラ。ヒカルド・バセラルが運営するジャズミン・スタジオにて（写真：Maria Bacelar）

以前から制作が伝えられていたアイルト・モレイラの最新アルバムが完成、4月末に配信が開始された。

1960年代末、先に渡米していたフローラ・プリンを追う形でアメリカ合衆国へ渡った打楽器奏者アイルト・モレイラは、公私にわたるパートナーとなったフローラと共に米国のジャズ界で活躍。

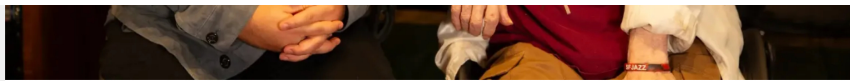
マイルス・デイヴィスのセッションやウェザー・リポートでの演奏や、フローラと共に参加したリターン・トゥ・フォーエヴァーなどの活動を通じて、クロスオーバー・サウンドの確立と発展に大きく寄与している。米国ではアイアート（Eye-arto）と呼ばれていた。

以来、米国のジャズ界で長く活動してきたアイルトは、先にブラジルに戻っていたフローラを追う形で2010年代にブラジルに帰国。以降、祖国に根を下ろして活動を続けていたが、2022年に生死の境をさまようほどの重度の肺炎を患い、闘病生活を余儀なくされていた。

そんなアイルトの復活のニュースが届けられたのが2025年の秋のこと。アイルト・モレイラとフローラ・プリンのドキュメンタリー映画が製作中であること、映画の監督が「エリス&トン」の共同監督を務めたジョン・トビ・アズライであること、そして、この映画の製作を通じて、映画の音楽監督を務めるヒカルド・バセラルと出会ったアイルトとフローラが、バセラルとの共同プロジェクトとして新作アルバムの制作に入っていることなどが伝えられた。

ブラジル国内のメディアでは、フローラのアルバムが製作されていると伝えられていたが、今回発表されたアルバム『Maracanós（マラカノス）』は、アイルトとバセラルの双頭名義作品で、フローラはフィーチャリング・アーティストという位置づけになっている。

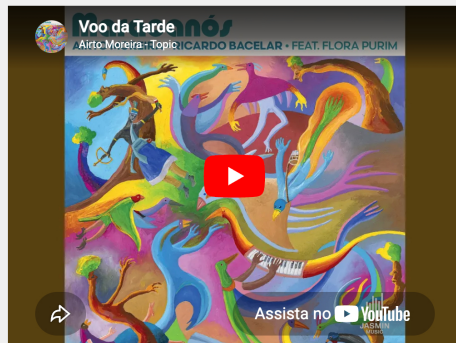




ヒカルド・バセラルとアイルト・モレイラ。バセラルが運営するジャズミン・スタジオにて（写真：Maria Bacelar）

『Maracanós（マラカノス）』はアイルトの打楽器、マルチ奏者であるバセラルの演奏を軸にしたインストゥルメンタルを基本とした作品で、何名かのミュージシャンが参加しているほか、唯一のヴォーカル曲「Mestre Novo da Guiné（メストリ・ノヴオ・ダ・ギネー）」では、ルイス・リマ・ヴェルジがヴォーカルで参加している。「Voo da Tarde（ヴォー・ダ・タルジ）」では、フローラが得意のスカットを披露している。ジャズ〜フュージョンからプログレッシヴロック調の曲まで計8曲が収められており、制作は、北東部セアラ州にあるバセラルが所有するスタジオで行われた。

アルバムは、各種プラットフォームにて配信中（<https://ffm.to/marcanos>）。



（文/麻生雅人）

戻る

著者のおすすめ



『シークレット・エージェント』を手掛けたクレール・ベール・メンドンサ・フィーリョ監督とは？



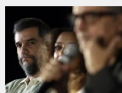
ヴァギネル・モウラ、フェルナンド・メイレリス監督の新作に出演へ



イベロアメリカ映画賞で女性監督作品が有力候補に



ブラジル映画『シークレット・エージェント』がプラティノ賞作品賞を受賞



ヴァギネル・モウラ、2026年のアカデミー賞でプレゼンターに就任

カテゴリ： [エンターテインメント](#)

タグ： [音楽](#)